



ICTを、より良い 社会作りの原動力に

三島 由佳 MISHIMA Yuka
総務省情報流通行政局情報通信作品振興課長

2019～現在 情報通信作品振興課長(コンテンツ振興課長)

昨今、放送のインターネットを通じた同時配信等の取り組みが始まっています。災害情報の提供や視聴者の利便性向上等が期待されますが、民間放送事業者にはビジネスの観点も必要です。技術実証や視聴データの活用等の推進等を通じて、新たな取り組みを後押ししたい。日々、放送のこれからを模索しています。

2016～2018 放送政策課併任衛星・地域放送課企画官

放送政策課で、改正個人情報保護法の施行に備え、放送分野の個人情報保護ガイドラインの改正を担当。個人情報の保護とデータ活用を両立するため、視聴履歴の活用のルール等を策定しました。翌年に衛星・地域放送課に移り、4K・8K放送の開始準備のほか、衛星の周波数を有効利用するための放送法改正を担当しました。

2010～2015 情報通信政策研究所主任研究官ほか

育児休業を経て、情報通信政策研究所に復帰。放送等の従来型メディアとインターネット上の新しいサービスの利用実態を24時間調査で把握すべく、東京大学と「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」を共同で開始しました。今でも調査は継続されていて、経年変化をデータで追えるまでになったのがうれしいです。

2005～2009 情報通信政策課、地域放送推進室ほか

情報通信政策課でICTベンチャーやスタートアップの支援を担当し、事業成長のスピード感と厳しさに刺激を受けるとともに、キャリア形成というものの捉え方が大きく変わりました。その後、初めての放送行政でケーブルテレビを担当、地上デジタル放送への移行という大事業を進める中、学びの多い生活を送りました。

2002～2004 情報通信利用促進課ほか

総務省に戻り、情報通信利用促進課で高齢者、障害者のICT活用支援や、ウェブのアクセシビリティの推進等を担当しました。多様な個性の人々が活躍できる社会の実現に向け、志を同じくする多くの方と出会い、一緒にできたのは、今につながる貴重な経験です。

1996～2001 郵務局企画課、厚生労働省出向ほか

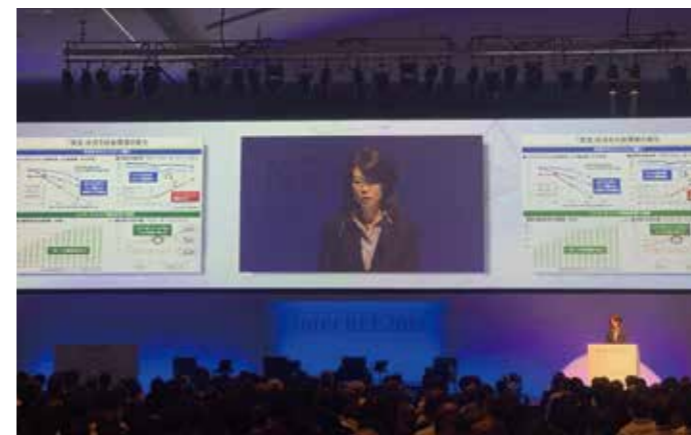
入省後、郵便政策を立案する課に勤務した後、海外留学を経て、厚生労働省社会援護局福祉基盤課に出向。福祉という全く異なる分野での行政経験を積みつつ、障害者の社会参加にICTが果たしうる可能性に興味を持つきっかけとなりました。

■ これまでのキャリアをふりかえって

学生時代からメディアに興味があり、旧郵政省に入省しました。以来、携わってきたICT分野では、圧倒的な技術とサービスを持つプラットフォームが出現し、急速にグローバル化が進みました。新たな課題に対するルール作りが次々と求められますが、この分野ならではのスピード感、行政官としての醍醐味でもあります。

インターネット上では、個人は一方的に情報を受け、消費する主体ではなく、情報を発信する多様な主体として存在することが当たり前になりました。現在、放送行政を担当していますが、動画配信サービスの進展もあり、放送に求められる役割が大きく変わりつつある中、新しいメディアのあり方に思いを巡らせています。

ICTを活かし、多様性を許容する社会を築きたい。思いを共有できる皆さんと一緒にできる日を楽しみにしています。



11月のInterBEEでの講演の模様